

- [【人間】](#)
- [【妖怪】](#)
- [【精霊】](#)
- [【妖精】](#)
 - [【大妖精】](#)
- [【悪魔】](#)
 - [【魔法使い】](#)
 - [【吸血鬼】](#)
 - [【小悪魔】](#)
- [【妖獣】](#)
 - [【旧地獄の動物】](#)
- [【式神】](#)
- [【幽霊】](#)
 - [【怨霊】](#)
 - [【半人半霊】](#)
- [【騷霊】](#)
- [【亡霊】](#)
- [【鬼】](#)
- [【玉兔】](#)
- [【月の民】](#)
- [【蓬莱人】](#)
- [【天狗】](#)
 - [【鴉天狗】](#)
- [【死神】](#)
- [【閻魔】](#)
 - [地蔵](#)
- [【神】](#)
 - [「八百万の神」\(阿求式分類\)](#)
 - [「神霊」\(阿求式分類\)](#)
 - [「神霊」\(霊夢式分類\)](#)
 - [「土着神」](#)
 - [「天津神」](#)
 - [備考](#)
- [【天人】](#)

【人間】

人間の里にも危険地帯の案内人や妖怪退治の専門家などが居る。(求聞史紀)
 普通の人間は里の外ではまともに暮らせないが、妖怪からの恩恵を得ながら豊かに暮らしている者も居る。(幻想掲示板)

立場的な意味では永琳と輝夜も「人間」に含む。

人間は妖怪を恐れて妖怪退治を行ない、妖怪は人間を食べるために襲うという関係が、ポーズに過ぎなくても幻想郷に必要とされる。

人間の立場を取る場合、妖怪への恐怖は住民税のようなもの。妖怪にとって人間を襲うことは仕事。
 (文花帖、求聞史紀、儂月抄)

【妖怪】

広い意味では妖精や幽霊や神なども含めて人外はみんな妖怪。

少々狭い意味なら、魔法使いや妖獣などを含めて妖怪。

一番狭い意味では、キャラ設定テキストにも「種族：妖怪」としか書かれないような妖怪。

幻想郷縁起の妖怪図鑑の中で、妖怪の中の「種族としての妖怪」の定義は「その他」。

「種族としての妖怪」の共通傾向(あくまで傾向)は、肉体的ダメージはバラバラにされても回復するが、謂れを持つ武器などによる精神的ダメージなら致命傷を与えられること。(求聞史紀)

妖怪の寿命は、残り1日程度が残り10万年程度になったりとコロコロ変動する(花映塚 小町)

阿求によると世界には、物理法則の働く物理の層以外に、心の動きや魔法や妖術が働く心理の層があるらしい(香霖堂最終回)

【精霊】

いわゆる毛玉。人格はない。妖精以下の存在。

【妖精】

自然現象そのものの正体。
精霊以上、人間以下の存在。言葉を理解する者も少なくはない。
消滅しても復活するが、ある程度の時間はかかる。三月精曰く「一回休み」。
遅いものではミズナラの木の妖精は随分長い事戻ってきていないが、火焰猫燐と共に出てくる妖精は凄まじく早く、1分もかからない。
場に影響されるので、異変時や凶悪な妖怪が待ち構えているときは影響を受けて、危険度に比例して強さと群れる数が増す。

【大妖精】

妖精よりも強い力を持った者。小悪魔と同程度の力を持つとされている。

【悪魔】

強大。(幻想掲示板 小悪魔)

悪魔はみんな自分中心で我侷な者と決まっているから、人間からも妖怪からも無条件で嫌われる。(永夜抄)

【魔法使い】

生まれつき魔法が使える者。または捨食の魔法を習得した者を指す。
魔力で自給自足できるので食事がいらぬ。
身体能力は人間と大差ない。
人間と同様に寿命がある。(捨虫の魔法を習得すると無くなる)
一般的に頭が良く勉強家。(求聞史紀)

咲夜は人間でしたがその二人は人間ではありません。
肉体的なダメージならかなり痛い目にあっても、
数日、酷くても2~3週間でけろっと復活しています。
逆に、精神的な(意味を持つ)攻撃では簡単には復活できない、
もしくは本当に死んでしまう事も考えられます。

回答が妖々夢の後だったり咲夜と絡めては居るものの
ユキとマイは旧作キャラであり、魔法使いという肩書きはあるが「種族：魔法使い」と断定できないのであくまで参考程度に。

【吸血鬼】

カリスマの具現、らしい。
初めて現れてから数百年程度と比較的歴史が浅い妖怪の中では最も強大な力を持つ。
驚異的な身体能力と魔力を誇り、樹齢千年を越える大木を片手で持ち上げ、
瞬きする時間で人里を駆け抜け、一声掛けるだけで大量の悪魔を召喚し、
自らを大量の蝙蝠に分解し、更には霧状にまで細かくし何処にでも入り込み、
頭以外が吹き飛ぶ怪我を負っても一晩で元通りになるという。
ただ、その驚異的な能力故に弱点は多い、まず日光に弱い為、昼間は大人しい。
流れ水を渡れないので雨の日も大人しいし、河も渡れない。鱈の頭や折った柵の枝に近づけない。
炒った豆を投げられると皮膚が焼ける。(求聞史紀)

流れ水は苦手なのではなく、渡るのを嫌がるだけ(儚月抄)

様々な弱点は、本当の弱点を探られないためにダミーとして持っている小さい弱点。
本当の弱点が隠されているので強い。(萃夢想)

- 小さくても弱点は弱点。本人達も弱点については理不尽に思っている。

【小悪魔】

悪魔は強大な種族だが、小悪魔は比較的力が弱い部類の総称。

【妖獣】

妖怪化した動物。

「種族としての妖怪」と違って存在が肉体に偏っているので、精神ダメージには強い。しかし肉体ダメージで致命傷を受ける

【旧地獄の動物】

灼熱地獄に棲む鴉や火の中に棲む猫など。人語は話せない。

長く生きたり、怨霊や魑魅魍魎を喰らうことで力を付けて妖怪化する。

【式神】

式が付いたもの。藍や橙の場合は妖獣に式が付いている。

式神 コンピュータであり命令されたことは効率よくこなす。(儚月抄)

式 パターンであり動きは単調になりがち。(幻想掲示板、ゲーム版文花帖)

主の近くだと一段と強い妖力を持つ。(妖々夢)

主の命令下で戦うと、主と同等の力を持つ。

もし文が式神になれば現在よりスピードアップする。(書籍版文花帖)

【幽霊】

物をすり抜ける。冷たい。

温度の一例としてマイナス14.7 の幽霊の話がある。(萃夢想 アリス)

御札で閉じ込めたりは可能。(三月精)

体は「気質」で構成されている。(求聞史紀、緋想天)

気質は外部情報を感情に変換する器官であり、幽霊も精神に影響を及ぼすことができる。

【怨霊】

熱い。

相手に恨みの念による行動を取らせることができる。

【半人半霊】

半幽霊は普通の幽霊と違って、あまり冷たくない。

逆に半身は普通の人間より体温が低め。

死んでも生きても居ない。(第2回東方シリーズ人気投票)

半身部分が死んでも元から冥界住人なので彼岸には行かない。(花映塚)

穢れがない。(儚月抄)

【騒霊】

騒霊が立てる音は、物理的な音ではなく「音の幽霊」。

そのため耳を塞いでも精神に直接響き、精神に影響を及ぼす。

【亡霊】

穢れがない。

完全な霊体。しかし幽霊程希薄ではないので触れる事が出来る。

反対に物をすり抜けたりはすることは苦手。

ただ、触れるると言っても、やはり肉体ではないので怪我を負ったりすることはない。

死体が残っていて、この死体が弱点。

香霖堂に死体を焼くと妖怪化せずに亡霊になるという話があるが

霖之助と阿求では「亡霊」の定義が違うと思われる。

【鬼】

文曰く、幻想郷のどの妖怪よりも単純に強い。
炒り大豆や鰯の頭が弱点だが、致命的な弱点ではない。
鬼退治には特殊な方法が使われていたが、いまではその方法は失われている。(萃夢想、求聞史紀)
鬼退治の刀も特別な刀が使われていたらしい。(非想天則 妖夢)

萃香の発言から鬼は妖怪ではないと言われる事もあるが
地霊殿キャラテキストに
"ここには様々な妖怪が住んでいるのだが、その中でも代表的な妖怪が鬼である。"とある。
「妖怪」という言葉に固定された定義があるわけではなく
求聞史紀の序文の「妖怪」の意味から「種族：妖怪」の意味まで、使う人次第なので
別に萃香の発言が実際と違ってはいない。

【玉兔】

月に住む兔。
他の玉兔たちの念を受信したり波動を送信して互いに会話可能。
伝えたくないことは話題に出さなかったり取捨選択は可能。
大げさで嘔吐き、ゴシップ好きで様々な噂話が飛び交うが純粋なので信じる。

「月の使者担当」
性格に問題がある玉兔が連行されて就かされる再教育の場でもある。
戦闘訓練などが厳しいので逃げ出す玉兔は少ない。

【月の民】

紫曰く、『遙かに進んだ科学力、強靱な生命力、妖怪には手に負えない未知の力』を持つ。
穢れがなるべくつかないように生きているので寿命が長い。
地上の生き物とは別種と言っていいほど高貴な存在である。

ただし月に移住し月の都を建設した月夜見とその親戚、また、八意永琳は地上出身である。
輝夜など月で生まれた者もいる。

注連縄は天津神が使った道具とされていることなどから
月の民の祖先は天津神と考えられているが、原作での明言はない。

【蓬莱人】

蓬莱の薬を飲んで、魂のみが本体になった人間。魂は不滅なため不死。
魂には大きさが存在せず新しい肉体を好きな場所に作れる。(東方永夜抄 Extra アリス談)
人間が飲むと、長生きしても普通の人間のように種族：仙人になることができず、人間のまま。(儚月抄 永琳)

普通の人間は魂が全身に宿っていて、たとえ腕を斬られても魂は繋がったまま。
遠く離れて白骨化しても繋がったまま。
神隠しでワープした場合、魂が繋がった全身すべてと一緒にワープする。(東方香霖堂 霖之助談)
人間は肉体と魂を切り離すことはできないが、霖之助は人間ではなく半妖なのでできるらしい。

【天狗】

天狗は強い力を持つが、その力を見せびらかすことはない。
身体能力も妖術能力も、幻想郷のどの妖怪にも引けを取らない強さを誇る。
スピードも匹敵する妖怪は吸血鬼くらいという高速。
天狗の長である天魔は、神に近い力を持つ。
天狗の中には神として信仰されているものも居る。(求聞史紀)
萃香に言わせると、本当はもの凄く強い癖に適度に手を抜く、とのこと。(文花帖)

【鴉天狗】

鴉天狗は、天狗の中でも移動速度が速い。

【死神】

彼岸の住人、船頭、案内、事務職、狩り取りなど、様々な職種がある。

【閻魔】

彼岸と地獄を支配する10人の閻魔王（十王）と裁判官たちが閻魔と呼ばれる。
閻魔は古いお地蔵さんをスカウトして、地元の幽霊を担当してもらってるケースがほとんど。
（ほとんど以外は、十王のことなのか、古くないのに神になった地蔵が居るのか、地蔵じゃないのが居るのかは不明）
幻想郷担当ならヤマザナドゥといったように職業名がある。
二交代制で、業務は中断されることなく行なわれる。

地蔵

道祖神ではないのでお地蔵さんに、境界の守り神である「塞の神」は宿っていない。
「地蔵菩薩」は人々が作り上げた架空の存在なので実在しない。

お地蔵さんは、元はただの石像なのだが、
「塞の神」と「地蔵菩薩」が習合した地蔵信仰が集まることによって
神様のようにっていく。

信仰が無ければ石人形でしかない。

【神】

信仰で神徳が増す。

忘れ去られると消えてしまう。

- ・例：ミズナラの大木を神として祀り上げたあと忘れ去ると、宿っていた神が消滅した（三月精第2部）

自分の神社であればいつでも好きに瞬間移動可能。（風神録 魔理沙エンディング）
神社は鳥居のある建物や神棚に限らず神様の宿る器であれば、それが神社。（儚月抄）

「八百万の神」（阿求式分類）

「物に名前が付く前の物」の実体 = 「八百万の神」。
物に名前が付いたとき、「物」「八百万の神」になる。
しかし物には僅かに同一存在だった「八百万の神」の影響が残る。

また、「八百万の神」に名前が付いた物にも宿る。
利用価値が高い道具は宿っている神の位も高いが、
利用価値の高さで位が高まるのか、位の高さにより利用価値が高まるのか不明。

長い年月で神性が変化した挙句に捨てられると
神ではなくなり、ほとんど妖怪に近い付喪神になる。
（求聞史紀）

霖之助が言う「神霊」は、阿求式分類で言う「八百万の神」のこと。
物に名前が無かった時代、太古の神々はあらゆる物に名前を付けていった。
名前が無い世界は、認識レベルの世界ではあらゆる物の区別が付かず
全てが世界の一部としか捉えられない混沌の世界だった。
しかし太古の神々が「名前」という境界を与えたことで区別が可能になった。
また神々は自身にも名前を付けた。
名前が付くことは認識されるようになるメリットと共に、
名前が顕す意味の側面の力しか発揮できなくなるというデメリットもある。
例えば「建御雷神」（タケミカヅチ）は、元々は鵜（かめ）に宿る神で名前も「武甕槌」（タケミカヅチ）だった。
鵜は呪術的な意味を持ち「武甕槌」も呪術の力を持っていたが
しかし「建御雷神」に改名したことで、雷は剣を顕すとされることから武神としての側面も発揮するようになった。

「神霊」（阿求式分類）

神格化された亡霊。

亡霊に対して一時的な祟り神信仰を集めた「流行神」という亜種もある。
災いの大元に仕立てた神を封印することで、災いが収まる。
やがて信仰が失っていくことで封印されていた災いも自然消滅し
流行神は神ではなくなり、巫女くらいにしか認識不可能で何の力もない希薄な存在になる。

「神霊」（霊夢式分類）

神霊は、分裂増殖が得意でいくら分けても同じ力を持つ。
神霊とは精神であり、考え方が伝えわっても元は減らないように無限に増殖可能で、
性格が宿った物が元の神と同じ力を持つことになる。
肉体を持っている神奈子や諏訪子の神霊も、分霊をいくらでも増やせるので一緒。
（儚月抄）

精神が存在しない神でもない限り、
基本的に全ての神様の精神に当て嵌まると想われる。
日本の神様という前置きがあるので、外国の神様は精神の性質が違う可能性もある。

「土着神」

月の民に逆らった土着神は注連縄（フェムトファイバー）で封印されている。（儚月抄）

土着神は異形であることから、元は妖怪の可能性もある。（The Grimoire of Marisa）

大国主 = 土着神という記述はないが、大国主も土着神だと考えられる。

「天津神」

天津神は注連縄（フェムトファイバー）という道具を持つとされている。
天津神は、大国主から国を略奪した際に、大国主の反乱を恐れて注連縄（フェムトファイバー）で封印した。

備考

神奈子が属してる「大和の神」は、天津神の一派と考えられる。

なお、東方の公式作品上で「国津神」という言葉が登場した事はない。
国津神という分類がないと断定できるような設定もないので、あるともないとも言えないが
現状では公式で言及されてないので、とりあえずないものとして設定を推測することが多い。

【天人】

成仏した幽霊や悟りを開いた人間や仙人が、天界で天人になる。
比那名居一族は上司の功績で天人になっただけなので、不良天人と呼ばれている。
死神（精神攻撃）を撃退して寿命を無視する。
天界の桃のおかげで体が鍛えられる。